

1 地域資源を生かした地域営農の推進 畑かん営農

1 対象

沖永良部島畑地かんがい受益地区（外俣，田皆，正名，朝知野地区），水利用推進リーダー

2 課題を取り上げた理由

- （1）国営畑かん事業等による畑かん施設の整備が進められ，水利用効果が高く高収益な品目等の面積拡大と生産向上が求められている。このような中，畑かん営農の理解促進を図るために，水利用推進リーダーの育成及び畑かん営農実践地区での活動支援を行い，活動を体系化した後，他地区への波及を図る。
- （2）水利用効果の高い作物における水利用技術の確立・普及を行い，生産性の向上と推進品目の拡大を図る。

3 活動内容

- （1）水利用推進活動の進め方の検討と合意形成の推進

ア 水利用推進活動事例集の作成

沖永良部島畑地かんがい営農推進協議会及び町等の関係機関・団体と，人・農地プランとの整合性や畑かん推進の手法について検討・合意形成を図り，地域主体の畑かんを活用した地域営農推進方法を構築した。

イ 水使用の少ない地区等の実態把握

近年の水利用率は，面積ベースの概ね5割程度で推移していることから，次年度以降の水利用啓発方法を検討するため，水利用の少ない農家の実態把握を目的とした。和泊町の重点地区については，土地改良区のメーター検針が実施されていないことから，水利用量を把握することが出来なかったため，今後の営農の中心となる中心経営体が参加する人・農地プランの実質化検討会後にアンケートを実施した。

- （2）畑かん営農組織を活用した畑かん営農及び啓発活動の推進

ア 重点地区の推進検討と合意形成

地域への具体的導入手段を検討した。「畑かん営農組織」のモデル育成をするとともに，更に，法人等を含めた中心経営体等の核となる水利用推進リーダーの育成と地域啓発を図った。

イ 水利用推進リーダーの育成・活動支援

モデル地区で実証農家を中心に，水利用推進リーダーへ誘導した。併せて関係機関・団体と連携を図り，広域に水利用推進活動を展開できるリーダー育成活動等を支援した。

ウ 高度水利用技術モデル事例の作成

新たなかん水器具のロールカーと畑かん水を利用した農機具洗浄ホースの実演展示をモデル地区で行った。

- （3）推進品目の拡大

和泊町において，新たな畑かん推進品目候補としてかぼちゃ，えだまめを選定し，先進地調査や展示ほの設置及び新規農家への導入支援を行った。



水利用ルールの確認



マイスターによる水利用の説明（田皆）



夏植えさとうきびでのかん水実演



洗浄ホース

洗浄ホース実演

4 活動の成果

(1) 水利用推進活動の進め方の検討と合意形成の推進
 ア 水利用推進事例集は、両町畑かん担当者と前年度事例の検討を行い、モデル地区における合意形成の推進、合意形成手法を共有できた。地域合意形成と育成モデルの検証を継続することから、本年度もブラッシュアップ（見直し）を行った。



ロールカー

ロールカー実演会

イ 水使用の少ない地区等の実態調査の結果、水利用の少ない農家の実態は、適度な降雨のためかん水の必要を感じなかったこと、一作固定式散水器具の設置労力がなく水利用していないことの割合が高いことが分かった（表1）。

本年度の7月から9月の降水量（表2）では、降雨が数日まとまっていたために相応の降雨があったとの印象を受けるが、夏秋季3か月のうち5mm未満の降雨であった日数は76日、その連続日数は15日以上が3回あったことから、かん水の必要がなかったとは言いがたい状況であった。

表1 水利用実態調査結果

（和泊町：外俣・朝知野・根折・畦布地区、
 知名町：正名地区）

かん水回数が、1年間で5回未満と回答した人 52人

降雨が適度であり、かん水の必要性を感じなかった	36.5 %
散水器具を設置する労力がなかった	13.5 %
水料金が低い	7.7 %
末端散水器具がないからかん水できない	7.7 %

表2 沖永良部（アメダスポイント）の令和3年7月～9月の日降水量（日降雨5mm未満を着色）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
7月	33	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	17	35	2	1	21	44	46	2	1	0	0	0
8月	0	2	0	0	4	0	9	41	5	23	2	0	0	0	0	0	0	0	欠測		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9月	1	0	0	0	0	1	2	1	0	0	46	2	10	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(2) 畑かん営農組織を活用した畑かん営農及び啓発活動の推進

ア 水利用に積極的な農家を水利用推進リーダーに誘導し、2人から4人へ増員できた。

イ 水利用展示ほをさとうきび、さといも、飼料で3か所設置できた。

ウ 新たな水利用技術として、ロールカーを用いた散水実演会を実施した結果、農家・関係者との意見交換等から、価格、タイヤに泥が付着しても走行が安定するのか、軽トラでの運搬方法等、今後改善すべき課題等が整理できた。

(3) 推進品目の拡大

かぼちゃについては、畑かん地区において、かぼちゃの栽培者が新たに2人増加した。えだまめについては、実証ほを設置し、かん水による出芽率の向上、斉一化が確認できたが、大雨による冠水によって湿害を受けたため、収量等の確認はできなかった。

5 今後の課題

(1) 水利用推進活動の進め方の検討と合意形成の推進

水利用の少ない農家は、少雨による生育障害の発生や過去の経験によりかん水の必要性を判断していることや散水器具を設置する労力がなく水利用ができていないことが分かったので、この課題を解決するため、関係者と解決方策の具体化と地域への説明を行う。

(2) 畑かん営農組織を活用した畑かん営農及び啓発活動の推進

大規模経営での水利用による作業効率の改善を図る体制づくり、かん水に何らかの効果をプラスした技術の組立が必要である。

(3) 推進品目の拡大

個の取組から産地化に向けた支援が必要である。

6 担当した普及職員（○印はチーフ）

○原田一幸，西裕之，渡辺剛史，野崎聡，中渡瀬久成，吉田幸哉，四藏文夫